

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一 2:9～13 「父のごとく」

[9]「兄弟たち。あなたがたは、私たちの労苦と苦闘を覚えているでしょう。私たちはあなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました」

「兄弟たち」とパウロは同じ主にある者として親しみを込めて呼びかけ、彼らのテサロニケ滞在中の具体的な生き方を述べて弁明を続ける。それはテサロニケ人たちがよく覚えていることであった。

「労苦」(κοπος)…継続的働きの結果の肉体的疲労を指す。「苦闘」(εκκλις)…苦しみ、もがき、辛苦。パウロたちは金銭や食物を提供されながら伝道していったのではなく、昼も夜も働いて非常な労苦をしながら神の福音を宣べ伝えた。彼らはキリストの使徒としてそれらのものを要求する権威はあったが、そのようにはしなかった。そのようにして彼らは誰にも負担をかけず、誤解や悪口の機会を与えなかった。ここに真剣に命がけて福音を伝えている人の姿を見る。

[10]「また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことは、あなたがたがあかしし、神もあかししてくださいることです」

パウロたちのテサロニケにおいてのふるまいは「敬虔に」「正しく」「責められるところがない」生き方であった。これは中身の伴わない表面的なものではなく、9節で言われている「労苦と苦闘」に裏打ちされた生き方であった。そこには自分のからだを打ちたたいてでも従わせるといふ血のにじむような努力や節制、強い思いがあったことであろう。→ I コリント9:27

このことにうそ偽りが無いことは当のテサロニケ人たちがあかしできるだけでなく、神ご自身を証人にお呼びして、神もあかししてくださいると、その公明正大性を強調している。また、彼らのこのような生き方は彼らの後に続く新しい信者たちにも良い模範となったであろう。

[11-12]「また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、ご自身の御国と栄光とに召して下さる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました」

パウロは教会に対して7節で言われた母としての立場ばかりでなく、父としての立場からも指導している。それは「あなたがたひとりひとりに」とあるように、パウロたちが教会員各自の個人的な必要に答えていくものであった。これは個人的、具体的な指導である。その指導は三つのことばで語られている。

①「勧めをし」(παράκλησις)…これは「慰める」(II コリント7:6)とも訳せることばで、力づけ、励ますという意味を含んでいる。

②「慰めを与え」(παρηγορησαί)…意思よりも感情に対する働きかけで、泣いている時、悲しんでいる時、苦しんでいる時などに慰めを与える。

③「おごそかに命じ」(マルテュロマイ)…権威をもって語り、命じる。そのようなことばは語られた人を力づける。

これらの指導の目的はテサロニケ教会の各人が「ご自身の御国と栄光とに召してくださる」という神の召しにふさわしく生きることである。「御国」とは神の支配される国のことであり、それは神の民の中に現実に存在し、世の終わりのキリストの再臨の時に完全に実現する。「栄光」とは神の栄光のことであり、神の卓越性、完全性、またその現れのこと。クリスチャンはキリストの再臨の時にキリストに属する栄光のからだに変えられ、もはや死もなく、悲しみや叫び、苦しきもない状態となる。そして新しい天と新しい地で神と共に永遠に生きることとなる。→ I コリント15:51~54、黙示録21:1~5

パウロたちはテサロニケ人たちに、父が子に対するように、威厳をもってこのように力づけ、励ましたのである。

[13]「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです」

テサロニケ人たちはパウロたちが宣べ伝えた神の使信のことばを単なる人間のことばや感嘆ではなく、事実どおり神のことばとして受け入れてくれた。そのことを彼らは絶えず神に感謝している。そこに、確かに神が彼らの心を開いて、みことばを受け入れるようにしてくださったという恵のみわざがあったからである。→ イザヤ55:10~11 神のことばは生きていて力がある。→ ヲル4:12 そしてこの神のことばは、今度はそれを信じ受け入れたテサロニケ人たちのうちに生き生きと現実となって働いている。

人間の造り出したむなしい神々は何もなしえない。しかし、真の神はそのみことばによって天と地を造られ、今も生きて働かれ、語られ、私たちの祈りを聞いてくださり、私たちと親しい交わりを持ってくださるお方である。

私たちが心に神のみことばをたくわえ、みことばに従い、みことばによって力づけられ、慰められ、励まされ、すばらしい神の国とその栄光に召して下さっている神に感謝しつつ、その召しにふさわしく生きる者になりたい。